



在学中の取り組みについて

昨年度に続き、今年度も保護者同士でゆっくりと進路のことについて話し、情報共有をする機会が少なくなっているのではないかと思います。また、しいの木親の会の行事も中止が続き、卒業生の保護者から卒業後の生活の話や在学中の取り組みの話などを聞く貴重な機会も減ってしまっていることと思います。そこで今回は、卒業生の保護者方の「在学中の取り組み」についてご紹介したいと思います。

小学部時代を振り返って…

身辺自立と体力作りを何よりも大事にして取り組みました。「学校は休まない」をモットーに生活をシンプルに、食事や排便もペースが乱れないように気をつけました。読み書きなどの勉強は二の次で、日常生活のパターンを作ることを大切に、当たり前ですが通学ルートを変えない、まっすぐ帰宅し手洗いうがい荷物整理(置場所を整える)を行いました。泣いても、騒いでも、暑くても、寒くても変えることはせずに、親の都合で子どものペースが曖昧にならないようにしました。

登下校は大変でした。他の友だちや先輩についていき、周りを良く見てないで道を渡ると困るので一人で渡るように歩くペースを調整したり、できている子はどのように渡るタイミングを判断しているのかを観察したりしました。「車を見て、手をあげて、止まってね!」「(車に) 止まるよね? 僕、渡るんだよ! ありがとう!」と心の言葉を代弁しながら、道を渡るタイミングを覚えられるよう取り組みました。そして、3年かけて大木歯科の十字路を自分の力で渡ることができるようになりました。

日常生活面については、「トイレ、着替え」は中途半端でも出来る!とせずに、様々なシチュエーションを考えながら取り組みました。例えば、トイレはどんな洋服を着ていても汚さずにできるか、公共のトイレもスムーズに一人で行ってこられるか、傘やリュック、コートを着ていてもフックにかけてできるか、ウォシュレットで遊んだり色んなボタンを押したりしないか、シャツが出た状態でトイレから出て来ないか…。小さいうちは“可愛い”で済むことも、すぐに大きくなります。先輩にお聞きしたことを参考にしながら工夫しながら根気よく取り組みました。

お風呂も大事です。我が家はお風呂場に手順表を貼って毎日一緒に取り組みました。手順は10才までに覚えてできるようになる、プライベートゾーンの洗い方、恥ずかしいことの意味がわかるは12才を目標にし、スモールステップで取り組みました、最終目標の「一緒に温泉に行くこと」も、今ではすっかり女湯男湯に分かれても忘れ物なく、時間で待ち合わせができるようになり、達成することができました。

私は、始めたらずっと続ける、例外を作らないようにすることを自分のルールとして取り組み、学校の先生にもよく相談しました。定着したら般化できるように、色んな場所に連れていきまし

た。うちの場合は、こだわりをどうするか、3回続けるともう子どもはOKルールとしてしまうので、そうになったら道理がわかるまで直りません。面倒でも許さない、阻止する工夫（見せない、導線を変えるなど）しながら取り組み続けました。そして、型をいれてから崩すようにしました。しっかり出来るようになったら、あえてイレギュラーを作り試してみる。この繰り返しでした。高学年になったら中学部をよくみて、先輩の保護者にも沢山質問させていただきました。

ひとつの事ができるようになるまでは、毎日毎日気の遠くなるような道のりだと思います。でも我が子の特性を丁寧にみて工夫して育てることで、将来社会に出る時に「これが苦手ですが、こんな支援をしていただけると出来ます！」と伝えられます。生活しやすくなると“頑張る気持ち”も“働く気持ち”も育つのではないかなと感じています。

お子様の特性に応じた取り組みの重要さや、保護者同士のつながりの大切さを改めて確認することができる貴重なエピソードをお寄せいただき、本当にありがとうございました。

まだ、大勢で集まってゆっくりと話すことが難しい状況が続きます。今後も進路だよりを通じて、卒業生の保護者の方から卒業後の生活の話や在学中の取り組みなどについて、お伝えして行ければと思います。